



優駿会同窓会会報

獣医・畜産・応用動物 同窓会（関連講座含む）

H28.3

（1）平成 27 年度（2015 年度）優駿会同窓会開催報告

平成 27 年 11 月 21 日（土曜）、構内の銀杏の葉が黄金色に輝き、清々しいヤンソン先生像に見守られた好日のなか、東京大学農学部フードサイエンス棟中島ホールにて優駿会同窓会が開催された。本年度は、ヤンソン賞受賞講演会、優駿会総会、新企画として座談会：「獣医・応用動物の今昔物語」の 3 部構成で開催された（参加総数 71 名）。

優駿会総会報告

1) 獣医学・応用動物科学専攻の現況

前多敬一郎獣医学専攻長から獣医学専攻の国際交流の取り組み、寄附講座等の研究プロジェクトの活動、千田和広応用動物科学専攻長より学生表彰のための専攻賞の設立、UTokyo Amgen Scholars Program への参加、大学院進学率等の報告があった。

2) 年会費・会報等について

金井幹事から以下の報告があった。①H25 年度卒業・修了生からは一律 3000 円の年会費に改定の確認（H26 の総会にて承認済み）、②同窓会の共同開催（昭和 60 年、61 年、平成 24、25 年卒の学年）の試み、③優駿会ホームページ内の情報（ニュースレター download site, 優駿会の案内など）の充実、優駿会 facebook の立ち上げと情報発信を行い、その代り④平成 22 年以降の卒業生には、優駿会案内の郵送は行わず、メール、ライン、facebook 等により告知したことが報告された。

3) 審議事項として、以下が承認された。

①同窓会名簿の発行間隔の変更案について、現状 2 年に 1 回（実質 2-3 学年分の間隔）から、3-4 年に 1 回（4 学年分の間隔）にすることが了承された。②優駿会の女子会員の事前アンケート調査を元に女子部会の設立が承認された。今後、女子部会の活動をホームページ、facebook 等で発信して行く旨が報告された（前田会員）。③平成 26 年度同窓会収支決算について了承された（堀 前幹事）。

第 1 部 ヤンソン賞受賞講演会 座長 前田・豊崎 朋子（塩野義製薬）

本年度は下記の 2 名の同窓生が第 3 回ヤンソン賞受賞者として講演を行った。

① 菊水健史（動物行動、麻布大学）

『ヒトとイヌの共生を支える認知、神経内分泌機構』

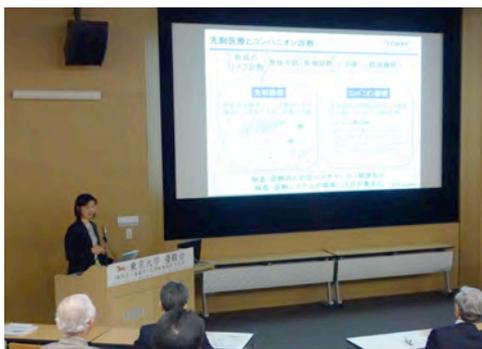
（講演内容）ヒトとイヌの共生は 1 万 5 千年から 3 万年前に始まるとされている。従来イヌはヒトの最良の友と言われてきたが、その両者の絆は科学的な研究対象として扱われて来なかった。今回、両者の関係性が、ヒトの母子間に共通に認められるような、オキシトシンと視線を主としたアタッチメント行動とのポジティブ・ループによって促進されるものであることを明らかにした。

② 滝澤 聡子（獣医薬理、東レ株式会社 先端融合研究所）

『体液中マイクロ RNA によるがん検査の可能性』

（講演内容）女性の獣医学科卒業生として、製薬企業以外の進路で活躍されておられ、攪拌機能のついたマイクロアレイのチップの開発により、高感度で、かつ PCR 増幅操作が無い場合でも定量性に優れたがん検査法の開発のトピックスを講演された。高感度アカデミア-企業連携によるがん・認知症血中 miRNA マーカー実用化に向けた大規模国家プロジェクトの成果についても触れられた。

※ 上記 2 名の同窓生には第 3 回ヤンソン賞が懇親会にて授与された。



左：ヤンソン賞受賞講演；右：表彰式の風景

第 2 部「獣医・応用動物の今昔物語」名誉教授-座談会 司会進行 金井・東 正美
(東京医科歯科大学)

パネリスト

- 高橋 迪雄 (獣医生理、味の素健康基盤研究所初代所長)
- 小川 智也 (細胞生化、理化学研究所研究顧問)
- 唐木 英明 (獣医薬理、前日本学術会議副会長、前倉敷芸術科学大学学長)
- 林 良博 (国際動物資源/獣医解剖、国立科学博物館館長)
- 吉川 泰弘 (実験動物、千葉科学大学副学長)
- 佐々木 伸雄 (獣医外科、動物看護師統一認定機構 機構長)

司会からのパネリストの先生方の略歴紹介後、獣医6年生移行時の経緯と応用動物科学専攻の誕生秘話から始まり、今後のグローバル化に伴う東大の獣医・応用動物科学専攻の教育・研究のあり方まで熱い議論がなされた。「ハーバード大学で獣医学が無くなった」例と、農学において動物科学が生き残るためのグローバル化に向けた東大独自の取り組みの必要性など、様々な話題が提供された。高橋迪雄先生から現役教員へ「現役世代は、もっと自信を持って良い！」と最後に激励を受け、その熱い流れは懇親会場まで続いた。会場では、[今回の座談会は非常に面白かった]、[数年に1回は、是非企画して欲しい] という意見を多く頂いた。

左右:6名のパネリストの恩師の先生方



左: 見上彪先生(微生物)の現役の時の思い出の話に聞き入る会場の風景



右: 獣医学専攻を代表して答える中山先生(病理)、次に意見を求められた千田専攻長
[懇親会談:一部の現役教員は意見を求められないように司会の目線を避けていたとのこと]

懇親会

座談会に引き続き、中島ホール横のフードサイエンス棟エントランスホールにて懇親会が開催された。尾崎会長の挨拶、ヤンソン賞の表彰状の授与、見上彪先生(獣医微生物、名誉教授)の乾杯の音頭のもと、懇親会が開催された。小川博之先生(家畜病院・高度医療科学教室)、藤原正明氏(カイオム・バイオサイエンス)、相川仁氏(中外製薬)などの同窓生にご挨拶を頂くとともに、岩手からは、中牟田夫妻(岩手大学)、鹿児島から和泉博之氏(新日本科学)など遠路はるばるOB・OGの方が優勝会のために駆けつけて下さり、盛大な同窓会懇親会となった。



総会後の集合写真

＝編集後記＝

尾崎会長・金井幹事のペアで同窓会を運営した。塩田先生・堀先生の3年間で、同窓生の交流の場として優駿会同窓会を活性化するために様々な企画が実行されてきた。その流れを維持・発展することを目標に、今年は、内田先生に多大なる迷惑をかけながら優駿会のホームページの充実化、優駿会 facebook の立ち上げを行った。ヤンソン賞の講演内容は2人とも大変に素晴らしいものであった。ただし、学生・院生も含めた若い同窓生の参加がまだまだ少なく、来年度以降は、さらに新しい企画を考えより一層の活性化が必要と感じた。また本年度企画したものの達成出来なかったことは、ニュースレターに広告を出し収入を増やすこと、支出減を見込んだメールアドレス等による優駿会の案内への移行があり、今後の課題と思われる。1年間と言う短い間でしたが、非常に良い経験をさせていただきました。最後に、本年度の優駿会の準備で、女子部会幹事の前田朋子さんと金井正美さん、懇親会準備と写真には、恒川直樹氏（日本大学）、事務局の業務を手伝って頂いた内山悠紀さん（獣医解剖、技術員）、貴志かさねさん（獣医解剖 D2）にこの場を借りて御礼を申し上げます。また、ヤンソン像の清掃、懇親会でのお手伝いに獣医解剖学教室、獣医生理学教室の学生の皆さんに感謝申し上げます（獣医解剖学 金井克晃）。



左：解剖・生理の教員、学生によるヤンソン像の掃除風景；右：掃除後のピカピカのヤンソン像。